

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (2)

”名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！”

＜第二回目の内容＞ 真のピアノ音楽はモーツァルトから始まった！

初回はバッハの「ゴールドベルグ変奏曲」を取り上げながらバロック期の鍵盤楽器を聴いたが、同時にこの期の代表的鍵盤楽器チェンバロによるカノンとかフーガを中心とする対位法にもとづく多声音楽は 最後の巨匠バッハに至って これ以上技術的に発展のしようがない程ピークに達した事実をご説明した。

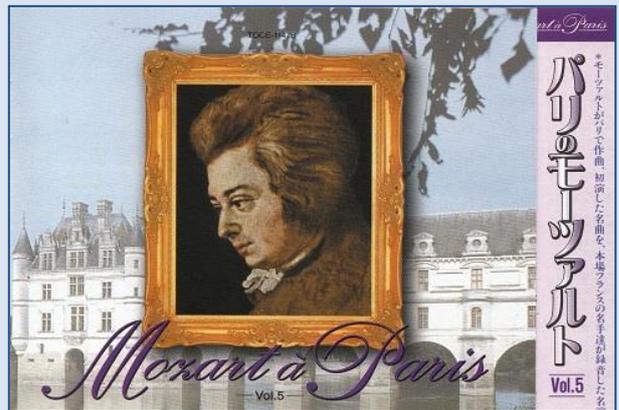
片や 18 世紀初め イタリア人クリストフォリによってハンマーで弦を叩いて音を出す仕組みの新しい鍵盤楽器、今ではフォルテピアノと呼ばれる”ピアノ”が発明される。当初は遅々として普及しなかったこの楽器も やがて古典派時代に入って 天才モーツァルトが現れるや、和声音楽の発展とともに急速に進歩する。フォルテピアノは まさにモーツァルトによって見いだされ、真の意味でのピアノ音楽はモーツァルトの出現をまって漸く動き出したといっても過言ではない。

今回はモーツァルト中期を代表し かつて”パリ・ソナタ”と呼ばれたピアノ曲の中でも特に名曲といわれる短調の代表格、8 番イ短調 K310 と長調の代表格、10 番ハ長調 K330 の 2 曲に対する古今の名演奏を取り上げ聴き比べてみたい。

8 番では、リパッティ(録音 50)、ギーゼキング(53)、グルダ(53)、リリー・クラウス(56)、ケンプ(62)、ギレルス(71)、ピレス(74)、内田光子(85)、リヒテル(89)、ペライア(90)、菊池洋子(2001)、フォルテピアノでは小倉喜久子(12)など。

10 番では、モーツァルト嫌いを自認していたグレン・グールドによる3種の演奏(58,59,70)、ハスキル(54 ほか)、バックハウス(61)、グルダ(80)、ホロヴィッツ(86)、シュ・シャオメイ(2011)、辻井伸行(12)、フォルテピアノのシュタイアー(2004)などを取り上げたい、

どちらかといえば ピアノ曲では ソロは初心者向の比較的平易な教習用であり、作曲者自身で弾くときは難しい協奏曲ともいわれたが、何れにしても 自身ピアノ演奏の超名手であったモーツァルトによる極上に美しいピアノ曲の魅力を存分に味わってみましょう。



日 時 / 11月9日(日) 13:30~15:30

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回

参加自由・入場無料

問合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>